



令和7年度
介護職員の働きやすい職場環境づくり
内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰

介護老人福祉施設
にしがも舟山庵
(社会福祉法人 京都社会事業財団)

TABLE OF CONTENTS

【施設概要】

施設名称 介護老人福祉施設 にしがも舟山庵
施設種別 特別養護老人ホーム（ユニット型個室）
定 員 80名
開 設 日 2010年4月1日

- 01 背景と目的
- 02 取組事例
- 03 取組内容
- 04 取組のスケジュール
- 05 取組の効果
- 06 まとめ

01 背景と目的

[背景]

開設以来、入居者の尊厳を支える視点を大切にした施設運営を進めてきた。

人手不足や感染症に関連した社会の変化等の中で理想と現実の狭間で職員の負担や苦悩が大きくなる中、職員の熱意や力量に頼るところが多かったため、熱意をもっている職員もまた疲弊してしまう現状があった。

[目的と重要性]

<生産性向上>

情報共有や共通理解を円滑に進める（業務状況の可視化や標準化）ことで、入居者中心に支援をスムーズに進めていくことができる。

<人材育成>

職員それぞれが自分にフォーカスできる機会を設けた。5年後の施設がどうありたいか等について職員の考えや描くイメージを共有した。施設内研修においてグループワークの時間を増やし自分の考えや悩みを話す、他の職員の考えや悩みを聞く時間を増やした。



02 取組事例

誰にとってもわかりやすい仕事の進め方を構築すると共に、情報共有機能を活用し、**「業務改善」**や**「職場の心理的安全性」**を高める

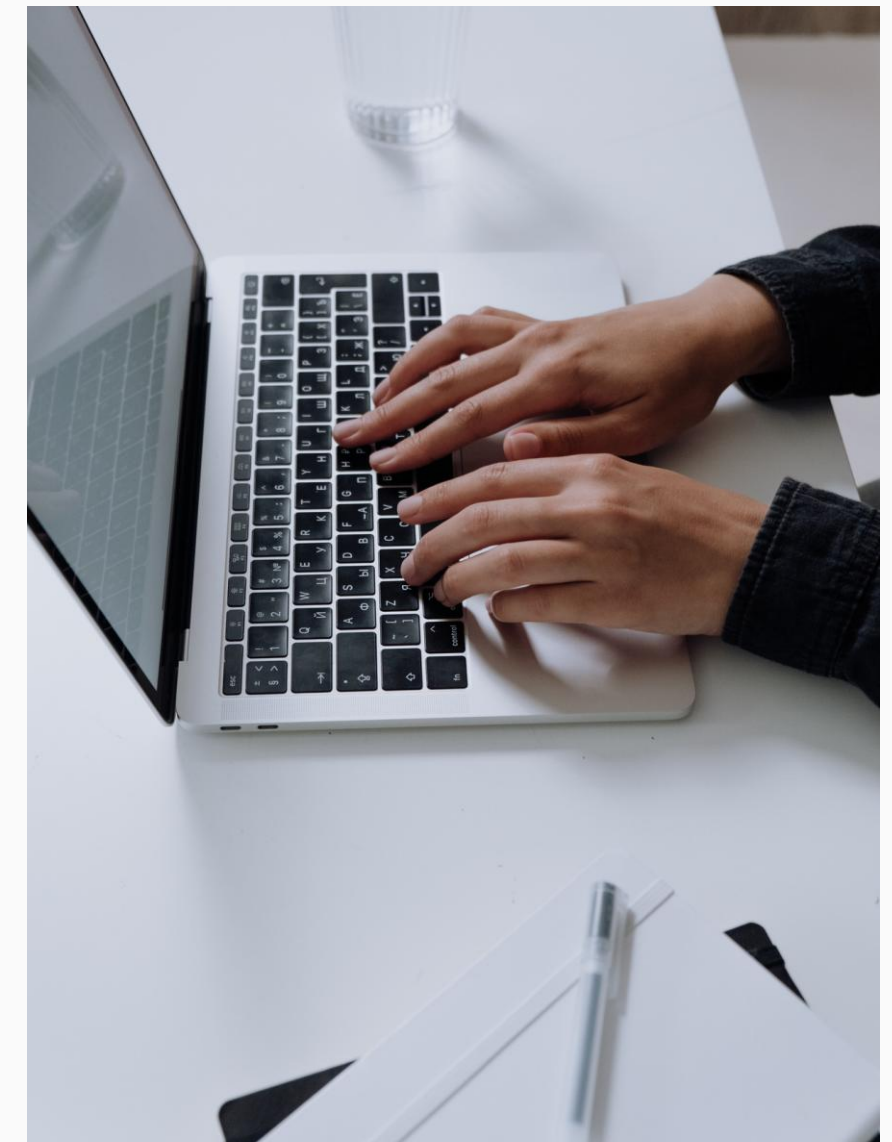
取組	目的	実施検討時の職員からの声
音声入力システムの導入	情報共有機能を活用し、業務の効率化	新しいものの導入に対する抵抗感あり。 使い方を覚える・試す時間がもったいない
自分にフォーカス研修	自分のことを知る機会、自分をケアする時間をもつ	何を話したら良いのかわからない。 自分にフォーカスするということはどういうことなのか分からなかったが、進めるうちに、自分を理解することにつながった
業務の見直し・可視化	人材確保と介護サービスの質の維持のための業務の見直し	週に1回のシーツ交換の時間も十分に確保できないくらい余裕がなかった。 人が少なく、業務に追われている

03

取組内容

音声入力システムの導入

法人高齢事業内で介護ソフトを統一する方針が決定された。施設として、業務を見直すよい機会と捉え、職員の意見や考えを聞き、組織に必要な取り組みとして、音声入力機能の導入を決定した。



03

取組内容

自分にフォーカス研修

職員それぞれが自分にフォーカスできる機会（自分の考えや気持ちを話す機会、自分のことを知る機会）をもてるように、自分のことを知る機会、自分をケアする時間をもつことを目的に、外部人材を活用し、個別に話を聞いてもらえる時間を作った。

施設内研修の研修ごとに1人で考える時間、考えたことを話す時間、他者の考えを聞く時間、交流する時間をもてるように研修内容を組み立てた。



03

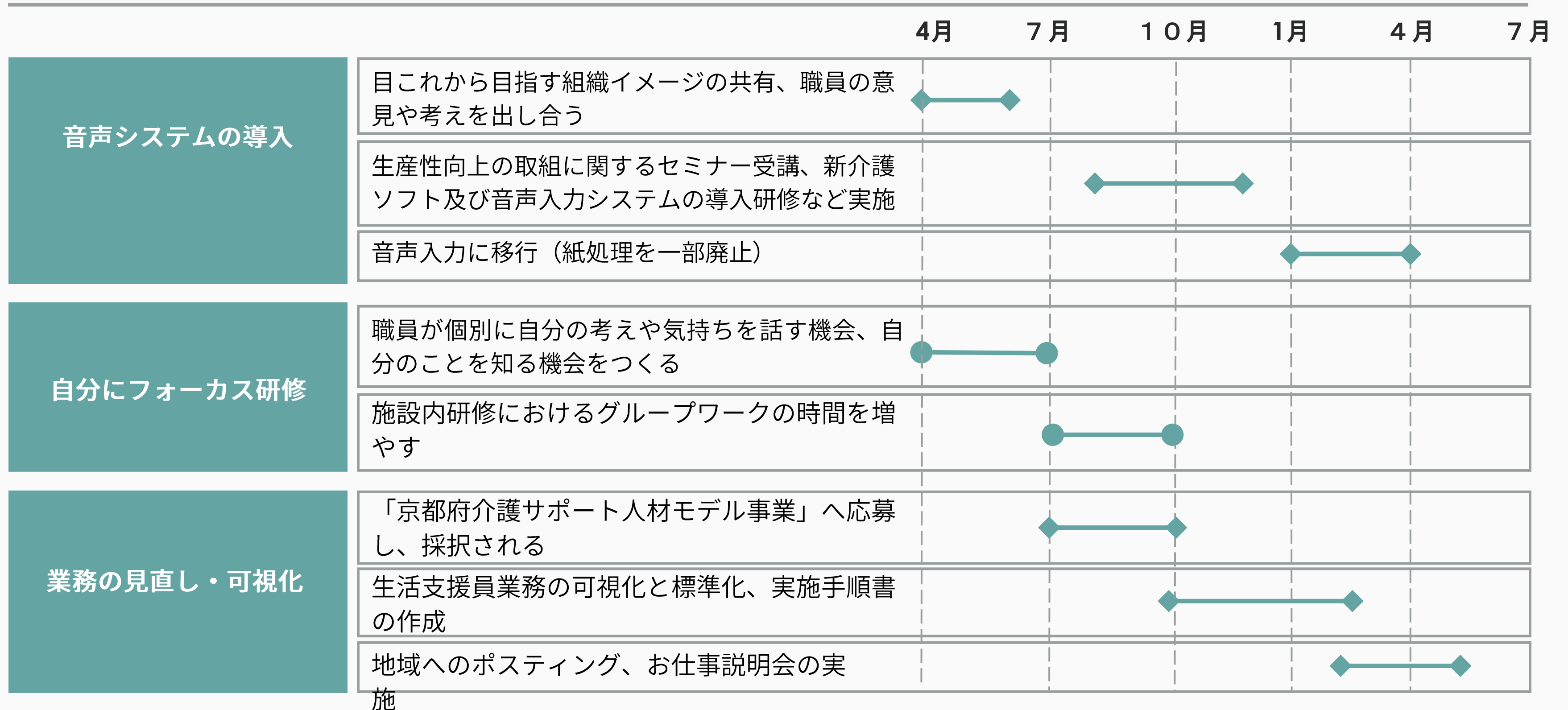
取組内容

業務の見直し・可視化

生活支援員の業務を整理して、手順書を作成したことで新しく入った職員も既存職員も同じツールで確認し合えるようになり、留学生アルバイト（生活支援員）を採用した際にも、作成した手順書を使用し、業務を指導できるようになった。



04 取組のスケジュール



05

取組による効果



[取組による効果やメリット]

円滑な入所者への支援

介護部責任者がまず使用し、システムを理解し、責任者自身が業務の効率化や負担軽減につながることを体感した上で、介護職員の使用促進を進めた。

また、職員がそれぞれのペースで自分の業務に取り入れていけたことにより、最終的には全員が使用できることにつながった。紙媒体からの転記作業が減り、入居者と直接関わる時間が増えた。

地域からの反応

生活支援員（介護補助職）募集チラシをポスティングすることにより、地域の皆様に施設を知っていただく機会となった。

職員の心理的安全性の向上

取組前は「相談しにくい」「あきらめがある」等の声もあったが、自分の思いや考えを聞いてもらえる機会が増えたことは安心して発言できる等の心理的安全性の向上につながった。

採用力の向上

地域からの反応があり、見学会や説明会を開催することができ、求職者からの応募もあった。

(職員からの声)

今回の取組を通じて、今まで以上に、安心して施設運営や支援内容等について提案できるようになり、また、システムの導入により職員間の情報共有が円滑になった。

06 質疑応答



Q

想定していた目的以外の効果はありましたか？

A

職員の負担軽減とサービスの質や利用者の豊かな暮らしの追求は同時に掲げることが大切。そうでなければ支援職の価値を尊重しない取組となると考えました。

新しいアクションを起こす中で多種多様な人や組織とのつながりができ、お互いが支え合う関係性が作れました。

Q

実施に当たり、工夫したことはありますか？

A

介護部責任者がまず使用し、新しい機器を理解し、責任者自身が業務の効率化や負担軽減につながることを体感した上で、介護職員の使用促進に取り組みました。

職員がそれぞれのペースで自分の業務に取り入れていくことを許容しながら進めることが大切と考えています。

Q

今後、進めていく予定の取組はありますか？

A

介護技術のアップデート

07 まとめ



心理的安全性が高い場所には人は集うと考えます。

福祉介護業界に自分らしく安心して働ける職場が増え、福祉・介護の担い手の安定につながり、しあわせと未来に希望を感じられる社会の一助となれるように、
自分らしく安心して働ける福祉施設を目指し、これからもさまざまな挑戦を続けていきます。